

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072300355
法人名	有限会社 野いちご
事業所名	グループホーム野いちご
所在地 (電話番号)	福岡県八女市大字矢原51-1 (電話)0943-30-1512

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 22年 3月 10日	評価確定日	平成 22年 3月 29日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.6 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(72,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	140 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		740 円	

(4)利用者の概要(平成 22年 11月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	城戸医院 川崎病院 筑水会クリニック ほり歯科医院 大内医院 有明クリニック 立山歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“グループホーム野いちご”は、木造平屋建ての造りで、リビングの天井も高く、開放感のある造りとなっている。ホームの周囲には田畑が広がり、お天気の良い日には、職員とご利用者が一緒に菜の花を摘みに出かけたり、田畑を眺めながらお散歩したりと、自然を感じながら寛いだ時間を過ごされている。昨年10月、開設当初から関わってこられた施設長が退職されたことをきっかけに、新体制での業務の見直しが行なわれた。報告・連絡・相談の更なる徹底を図り、職員のアイデアを取り入れたケアの統一を図っていきたく取り組みが開始されている。高齢者は、時間の経過と共に、精神・身体機能の低下が現れてくるため、1日1日を大切にしたいという想いを込めて、“今を大切に”という理念の基、月1回の会議や勉強会、日々の現場の中で話し合いが行なわれ、今日できる事は今日行なうというケアの実践に向け、取り組みが行なわれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果に基づき、改善に向けた取り組みが行われた。その具体的な取り組みの内容として、長期・短期目標の期間を設定した介護計画の見直しが行なわれた。また、成年後見制度等について理解を深めるために、外部講師をお招きしての説明会も行なわれた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が、自己評価の意義を職員に説明し、職員全員に資料を配布して、職員一人ひとりに考えてもらい、時間を取って話し合いを行なった。記録に残すことの重要性に職員が気づき、報・連・相の徹底やケアの目的について再確認する良い機会となった。気づいたことは報告を行ない、自己流でケアを行なわないようにしようと、ケアの統一に向けた取り組みが開始された。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご利用者・ご家族・民生委員・市の担当者に参加頂き、2ヶ月に1回開催されている。ホームの近況報告や行事の予定など報告を行ない、参加者に意見や助言を頂いている。次回開催の1ヶ月前には、検討会議の内容をお知らせしている。21年10月には、地域包括支援センターの方を会議にお招きして、成年後見制度についての説明を参加者に行なって頂くなどの取り組みも実施された。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ご家族面会時に、日頃の暮らしぶりや職員の移動など報告し、新任職員の紹介も行なわれている。毎月発行の野いちご新聞と合わせて、毎月のお便りに健康状態等も個別に記載して、ご家族に郵送している。ご家族よりご意見や苦情を言って頂けるよう意見箱を設置し、ご家族来訪時に、「何かないですか」とお尋ねしている。運営推進会議の中でご意見を頂くこともある。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>ホーム主催の夏祭りに地域の方々をお招きしたり、読み聞かせのボランティアの方に来て頂いている。小学生の訪問もあり、紙芝居や楽器の演奏、プレゼント交換など行なわれ、楽しいひと時を過ごして頂いている。ホーム開設から7年が経過し、お散歩中に挨拶を交わす顔馴染みの方も多く、地域の方から畑で採れた野菜や果物、釣ってきた魚など頂くこともある。“野いちご新聞”を、地域のお宅に回覧板で回して頂き、ホームの行事などお知らせしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時に「今を大切に」を、当時の職員と一緒に考えて理念として掲げた。“①家庭的な雰囲気の中で状態及び環境に合った生活を専門スタッフが支援。②プライバシーを守りながら少人数での生活を楽しく支援します。③地域の特性を活かし地域と密着したサービスを目指します。”をホームの方針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、高齢者は時間の経過と共に、精神・身体機能の低下が現れてくるため、1日1日を大切にしたいという事を職員に伝え、だから“今を大切にしたいケア”をして欲しいと、研修等で伝えている。月1回の会議や勉強会、日々の現場の中で話し合いが行なわれ、今日できる事は今日行なうというケアを実践されている。職員は、自分がされて嫌な事や嬉しい事を心におき、ご利用者主体のケアを心がけている。ご利用者の話しに耳を傾け、何でも言い易い関係作りに日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の夏祭りに地域の方々をお招きしたり、ボランティアの方や小学生の訪問を受け入れ、ご利用者との交流を図っている。ホーム開設から7年が経過し、お散歩中に挨拶を交わす顔馴染みの方も多く、地域の方から畑で採れた野菜や果物、釣ってきた魚など頂くこともある。地域活動の一環である清掃活動や草取り、公民館での話し合いなどにも、職員が参加している。“野いちご新聞”を、地域のお宅に回覧板で回して頂き、ホームの行事などお知らせしている。	○	ご利用者と一緒に参加できるような、地域のお祭りや催し物などの情報を更に収集していきたいと考えられている。更なる交流促進へ向けた取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の意義を職員に説明し、職員全員に資料を配布して、時間を取って話し合いを行なった。その結果、前施設長に頼っていたことを職員が気づいた。自己評価に基づき、職員間でケアの統一を図ることや気付いたことは報告をあげるなどの取り組みが始まった。前回の評価結果を基に、全員で話し合いを行い、介護計画の見直しなど、改善に取り組んでいった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・民生委員・市の担当者に参加頂き、2ヶ月に1回開催し、ホームの近況報告や行事の予定など報告を行なっている。次回開催の1ヶ月前には、検討会議の内容をお知らせし、会議では、活発な意見交換が行なわれている。行事予定の報告では、参加者が花見の名所を提案して下さり、地図を書いて教えて頂いた。21年10月には、地域包括支援センターの方を会議にお招きして、成年後見制度についての説明をして頂いた。	○	運営推進会議の写真を野いちご新聞に掲載し、ご家族に配布しているが、会議の具体的な内容までは記載されていない。会議の議事録には、新聞と同じく写真が掲載され、会議の内容や質疑応答の内容などが細かに記載されており、参加されていないご家族に、会議の内容も伝えられてはいかかであろうか。ホームの取り組みなど、更にお伝えできる機会になるものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、運営推進会議の時に野いちご新聞を渡しており、ホームの取り組み等報告を行なっている。地域密着型サービスに変わり、他の市町村にお住まいの親を、当ホームに「入居できませんか」と、ご家族からの相談も多く、市の担当者に現状を報告し、相談を行なった。また、市の担当者を通して、地域包括支援センターの方に講師を依頼し、成年後見制度についての研修を実施した。市の窓口への訪問時や電話の時も、いつでも相談に乗って頂いている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの方が、ご利用者や職員等に、制度に関する講義をして下さった。参加されなかったご家族には、資料が配布された。説明用のパンフレットを、ホームに備え付けてある。現在、1名の方が、制度を利用予定で、地域包括支援センターの方と管理者で協議が行なわれている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族面会時に、日頃の暮らしぶりや職員の移動など報告し、新任職員の紹介も行なわれている。毎月発行の野いちご新聞と合わせて、毎月のお便りに金銭の収支報告を記載し、健康状態等の報告も記載して、ご家族に郵送している。体調に異変があった時は電話で報告している。面会の少ない遠方のご家族には、電話で状況を報告しており、ご家族が知りたい内容に合わせた報告が行なわれている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より、意見や苦情を言ってもらえるよう意見箱を設置し、来訪時に「何かないですか」とお尋ねしている。管理者は、「意見がないことが良いことではない」と考えられており、ご利用者の状況やホームの取り組み状況など、新聞やお便りを通して、ご家族に報告して意見を伺っている。ミキサー食を召し上がっているご利用者から、「器が深い」とご意見を頂き、職員間で話し合い、浅めの食器に変更するなどの対応が取られている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者(運営者)は、職員の離職を最小限にする為に、休みの希望には極力応じられている。また、職員の日頃の様子を見て、ストレスがあると思われる時は、管理者やホーム長が個人面談を行い、悩みを聴取したり、食事会など職員親睦の場を設けている。外部講師を招いて、メンタルケアについての内部研修も行なわれた。職員交代による、ご利用者へのダメージを防ぐ為、ご利用者に合わせた説明をしたり、新規職員への情報提供・指導も充分行なわれている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は職員の採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、採用対象から外すことはなく、経験のない方や資格が無い方でも、福祉や介護に関わりたいという方は採用されている。10代から50代と、職員の年齢層は幅広く、管理者は、年代に応じた考え方や意見を尊重し、運営に取り入れられている。日本舞踊・お菓子作り・料理等、職員が得意なことを、より多く発揮してもらっている。職員の資格取得等の為に、勤務調整希望に極力応じたり、勉強会も開いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、「自分が言われて嫌なことは人に言わない」、「トイレが間に合わなかった時に、“失敗した”という言葉は使わない」など、具体例を出して職員に話しをされている。ご利用者一人ひとりのプライドを尊重し、人生の先輩として日々支援に取り組まれている。職員に、人権に関する外部研修に参加してもらい、内部での伝達研修が行なわれている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、月1回の内部研修や八女地区介護保険事業連絡会グループホーム部会主催の研修会に、定期的に職員を参加させている。前施設長の退職後、施設長に依存していた職員が気づいた。管理者、ホーム長、計画作成担当者を中心とした新体制のもと、職員が自主的に考え、行動に移す。その中で報連相の徹底を図りながら、ケアの統一を図るなどの取り組みが開始された。	○	職員一人ひとりがケアについて考えたり、アイデアを出し合いながら、行動に移すという自主的な取り組みが始まっている。管理者は、半年間かけて、ケアの基本について勉強会を行い、しっかり身につけてもらい、アイデアを取り入れたケアの統一を図っていきたく考えられている。新体制に向けた取り組みに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、八女地区介護保険事業連絡協議会グループホーム部会の研修会に参加し、同業者との交流を図ったり、情報交換を行なっている。研修では、他事業所の職員とのグループ討議も行なわれ、交流を図る良い機会となっている。研修以外でも、日頃から連絡を取り合う機会は多く、制度改正等について、他の事業所に確認したり、情報を共有するなどの連携が取られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に、ご本人やご家族にホームを見学して頂いている。職員がご自宅や入院先を訪問し、お話をしながら顔なじみの関係を作る努力をしている。病院からのサマリー等を参考に、事前に注意が必要なことなど、職員間で情報を共有している。新しく入居された方に、進んでお世話を下さるご利用者の方もおられ、協力をお願いしている。ホームの生活に馴染まれるまで、職員は、ご本人と接する時間を多く持ち、さりげなく寄り添いながら支援するよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から、戦時中の苦労話や、物のない時代の生活の知恵など、教えて頂いた。料理に適した食材の切り方なども教えて頂いている。職員は、日々の活動の中で、個々のご利用者のお力を発揮して頂いている。職員に対して、「美味しかったよ」「ごめんね、きつかるう」などのお褒めの言葉や、労いの言葉をかけて下さり、人の尊厳というもの、ご利用者から教えられることも多いと職員は感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規のご利用者については、計画作成担当者が、ご利用者とご家族からホームでの生活に対する意向や希望を伺っている。また、入居後1週間程かけて、実際のケアの状況を見たり、一つ一つの生活行為について職員に確認し、できる事できない事の把握に努めている。職員が日々のケアを通して、把握したご利用者の意向を基に、身体状況も含め、3ヶ月毎にケアチェック表に記録として残している。意向の把握が難しい方には、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向や職員の気づきが反映された計画となっており、ご利用者、ご家族にわかりやすい表現での記載がされている。計画の原案をご家族にも見て頂き、意見を頂いたり、職員やかかりつけ医・協力医療機関の医師の意見も踏まえ、計画が作成されている。また、『地域で暮らす』という視点が計画に盛り込まれており、ご家族等の役割も計画に盛り込まれている。職員の意見やアイデアを盛り込んだ、個別介護手順書の作成が予定されている。	○	“課題・ニーズの欄”には、個別、具体的な課題・目標が記載されているが、ご家族や職員など、介護者から見た視点での表現による記載が一部見受けられる。「ご利用者自身の計画」という視点に立ち、言葉を置き換えるなど、表現を工夫されてみてはいかがであろうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、ユニット毎に会議の中で、ケアの変更等、全ご利用者について検討が行なわれ、必要時は計画の変更が行なわれている。基本的な計画の見直しは、3ヶ月に1回行なっているが、ご利用者・ご家族のご要望や状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも臨機応変に見直しが行なわれている。見直し前に、面会時や電話でご家族からお話しを伺い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が取られ、月4回、協力医療機関の医師による往診や、週1回、非常勤の看護師による健康チェックが行なわれている。ご利用者が入院された場合など、病院での状態把握を行いながら、早期退院に向けた話し合いが行なわれている。自宅へ外出・外泊の際の荷物の準備や、自宅までの送迎介助、ご利用者の希望での買い物や食事、墓参りなどの支援も行なわれている。事業所の多機能性を活かした柔軟な対応が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後も、以前からのかかりつけ医が往診して下さっており、職員による通院介助はない。往診の結果は、お便りでご家族に報告を行なっている。1名の方はご家族が通院介助されており、受診結果を報告して頂いている。ご利用者の体調に合わせて、往診回数を増やして頂く等、臨機応変に対応して頂いている。職員が、ご利用者の状況を細かに報告しており、早急に酸素の手配をして下さるなど、医師との連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者、ご家族が、ホームでの看取りを希望され、これまでに3名の方の看取りが行なわれた。重度化した場合や終末期のあり方について、早期から全ご利用者、ご家族と話し合いを行ない、対応を検討している。ご利用者の状態が悪化した場合、かかりつけ医が頻回に往診して下さり、夜間でも駆けつけて下さるため、職員も安心してケアにあたる事ができている。ご家族も毎日面会に来られ、職員と一緒に最後までケアにあたって下さった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の職員会議や日々の申し送りの中で、「ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮するように」と、管理者より指導が行なわれている。職員は、排泄の失敗をされている方に「これは私の仕事よ」と優しく言って片付けるなど、ご本人の自尊心に配慮している。個人情報の保護についても、申し送りの際は、ご利用者の名前ではなくイニシャルにて行っている。日々の記録やメモ類を来訪者の目に触れる場所に置き、不要になったメモなどはシュレッダーにかけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ご利用者の立場になって考え、その日の体調や気分に合わせて支援を行なっている。“どのように過ごしたい”と言う希望を表して頂けないご利用者には、無理のない範囲でお散歩をしたり、買い物に出かけるなどの支援を行なっている。帰りたくて落ち着かれないときには、行動を制止せず、一緒に散歩に行く等、落ち着かれるまで側に寄り添っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立を考えたり、食材の買出しも、毎日交代でご利用者2人～3人をお連れし、ドライブを兼ねて出かけている。また ご利用者同士で役割分担を決められていて、調理の下ごしらえ、味付け 盛り付け テーブル拭き 配膳から下膳までお力を発揮されている。また 天気の良い日にはテラスで食事をしたり、花見の時期には、手作り弁当を持参し、外での食事を楽しんでいる。手作りのおやつ作り(里芋饅頭、おはぎ、柏餅等)やケーキ作りにも挑戦している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後2時から夕方まで、1日おきに入浴して頂いている。ご利用者のご希望や好みに応じて、入浴回数や順番や入っている時間、湯温などに対応している。入浴を好まれないご利用者には、“今日のお風呂の色はピンクですよ”、“食事が美味しくなりますよ”など言葉を交えて支援している。ご利用者が楽しんで入浴して頂く為、職員は、湯桶の横に座ってご利用者と目線をあわせ、昔話をしながら、リラックスした時間を過ごして頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の趣味や習慣を活かせるように、裁縫のお好きな方には洋服の縫いを縫って頂いている。家事が得意な方には、掃除やモップがけ、洗濯物たたみなど、お力を発揮して頂いている。その他、歴史を好まれるご利用者には、職員が三国志の本をお持ちしたところ、とても喜んで読まれていた。ご利用者一人ひとりのできる事を、日々の生活の中で活かせるような支援が行なわれている。	○	日常生活での役割として、できる事はご本人に行って頂いているが、ご本人の趣味等楽しみ事については、まだ満足ができるまでの支援ができていないと感じている。ご本人の趣味等を活かした取り組みを、今後増やしていきたいと、施設長や管理者は考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院や行事としての外出以外にも、毎日の食材の買出しに、ご利用者2~3人ずつ交代でお連れしている。また、季節に応じて、梅、桜、菜の花、藤の花やコスモスなどのお花見に出かけ、気分転換をして頂いている。時に、落ち着かない様子が見られた時は、行きつけの食品店へお連れすると、主婦の感覚を取り戻され、落ち着かれたこともあった。お天気の良い日には、ホーム周辺の菜の花を見ながら、お散歩を楽しまれている。	○	昨年、日程の関係で行けなかった“ベンガラ村天然温泉”に、今年は、是非行きたいと計画が予定されている。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜のみ施錠しているが、ご利用者にとって鍵をかけない暮らしが大切と全職員が理解し、日中鍵をかけず、自由に出入りして頂いている。帰宅願望の強いご利用者が数名おられる。ご本人が急に黙り込んでしまわれたり、“帰ろうかなあ”の呟きが聞こえると、職員同士で声掛けを十分行い、一緒に同行している。ご本人が落ち着かれるまで、一緒にお散歩するなどの対応が行なわれている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼し、年2回定期的に訓練を実施している。昨年は、インフルエンザの関係で1回のみの実施となった。救命救急教室に職員が参加し、AEDの使い方を教えて頂いた。ベルの音が近隣まで届いているか、火災報知機の確認も行なわれた。運営推進会議にて、委員の方々に、災害時の協力をお願いしている。災害に備えた備品も、水・非常食(真空パックのご飯、レトル食品)毛布やオムツなども準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一か月の献立を職員2名が交代で作成し、栄養について学んだことがある計画作成担当者が、栄養バランスやカロリー計算など行なっている。ご利用者に美味しく食べて頂くために、好みにあわせ食材を変えたり、調理方法や味付けを変える等、個別の対応もしている。食事量、飲水量は記録をとっている。飲水量の少ないご利用者は、かかりつけ医の許可を頂き、大好きな炭酸飲料を薦めたり、氷を口に含んで頂いたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングの天井は高く、圧迫感を感じさせない造りとなっている。窓も多く、四季折々の景色を感じることができ、温かみのある木造住宅となっている。広いリビングは、ユニット毎にテーブルや椅子、ソファの位置も工夫されている。畳のスペースもあり、ご利用者が思い思いに過ごせる空間となっており、ご利用者の好きな音楽が流れている。換気扇が設置され、時間を決めて窓を開けるなど、空気の流れや匂いにも配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、エアコン、カーテン以外は、ご利用者が、自宅で使用されていた馴染みのベッドやテーブル、椅子、タンス、鏡台、仏壇などを自由に持ち込まれ、ご本人が過ごし易いように、ご家族と一緒にお部屋づくりをされている。畳の部屋を希望されれば、畳を敷くなどの対応も行っている。必要に応じて、電動ベッドの貸し出しも行なわれている。		